

パラフォト写真展

「パラスポーツで世界とつながろう！」

2019年11/1(金) - 13(水) 10:00 - 16:00

会場：アシリ・和來ギャラリー 岩見沢市志文町 299-8 入場無料

トークイベント：11/2(土) 13:50 -

佐々木延江 (PARAPHOTO 代表)・山下元気 (PARAPHOTO カメラマン)

会場：クピド・フェア内大食堂 入場無料

パラリンピックを知り知らせる NPO メディアとして 20 年。国内外のパラスポーツをファンの視点で取材・発信してきました。メンバーは、プロの写真家、ジャーナリスト、アナウンサーから学生、主婦までいろいろ。障害のある人のスポーツに魅せられた人々によるメディア活動、パラスポーツの振興を目的として活動しています。ウェブメディア「PARAPHOTO」は、フォトグラファ、ジャーナリストによるボランティアベースのウェブサイトで、世界中で活躍する選手を追い伝えています。東京招致が始まり、2020 が決定 (2013 年) してからは多くのマスコミが取材するようになり嬉しいような、アイドルが手の届かない存在になってしまったような寂しい想いもあります。しかし私たちは 2020 後の社会を見つめて新たな活動を計画しています。例えば写真を見ない人とも楽しめる展覧会のプロジェクトなど、障害のある人ない人の交わる社会づくりに役立ちたいと考えています。

今回の写真はアテネパラリンピック (2004 年) から、東京 2020 パラリンピックを控えた注目のパラ種目、そして先月行われた車いすラグビーワールドチャレンジまでの選りすぐりのシーンを集めてみました。セレクトしているうちに、東京 2020 が北海道にも来るということに・・・、パラリンピックはどうなるのか？気になりますが、急遽ブラインドマラソンで世界記録を持っている道下美里選手の写真も追加しました。ぜひ、いろいろなシーンをご覧ください。

「パラリンピック・ムーブメント」について

オリンピック、ワールドカップサッカーに続く今や世界第3位の規模を誇るスポーツ大会となった「パラリンピック」。『これがパラリンピックの世界!』と実感するのは、やはりセレモニーの華やかさ。

私たちが取材を始めたのは直近 20 年に過ぎないが、史上最高のクオリティと言われるロンドンパラリンピック (2012 年) に学ぶことは多い。ロンドンではオリンピックの終わる 4 日前「さあこれから本番だ!」とパラリンピックにフォーカスしたキャンペーンが始まる。会場に来れない人々も街じゅうからパブリック・ビューイングの会場に集まり開・閉会式に参加。むろん期間中の熱戦も見守った。

子供から親へ伝える「リバース・エデュケーション」戦略も功を奏し、チケットは完売。もっとも重要に思うのは「パラリンピックのレガシー」「パラリンピックムーブメント」の価値を開催地域の市民とともに世界に発信したことにあると思います。

IPC (国際パラリンピック委員会) の日本の窓口である JPC (日本障がい者スポーツ協会) の HP にも、それら (パラリンピックムーブメント) は、選手や競技関係者だけが担うのではない。気づき (インスピレーション) を得た誰もが担うものである、とあります。受け入れる側の人々、開催都市 (北海道も) の市民が大会成功のキーマンとなるのが重要なのだと思います。

どの都市・地域にもパラスポーツによる障害のある人との街づくりの可能性がある。開催都市となることで選手の発掘、育成、強化に明確な目標を持つことになる。実際に、東京 2020 の現役主力選手には、2009 に東京で地元開催されたアジアユースパラゲームズの日本代表を通じて初めて日本代表になった選手が多くいます。

2年に1度、夏・冬交互に開催されるパラリンピックの他にも、大陸ごと、競技ごと、障害ごとにも様々な (パラ) スポーツがある。トップ選手ばかりが目立つかもしれないが、地域の理解があるからこそ世界で活躍する選手が育まれると思います。来年はぜひその最高峰の (東京 2020 の) 機会を興味を持って味わってほしい。そして 2030 年の札幌にむけ多様な議論を積み重ねていけるよう祈っています。

展示 1



**ウェルカムセレモニー
平昌パラリンピック**

撮影：中村 Manto 真人 (2018 年 3 月)



**フレイム (聖火)
ロンドンパラリンピック**

撮影：安藤理智 (2012 年 9 月)



**入場行進
平昌パラリンピック**

撮影：中村 Manto 真人 (2018 年 3 月)



**パブリックビューイング
トラファルガー広場 (ロンドン)**

撮影：佐藤亮 (2012 年 8 月)



**「ポジティブ・スイッチ」
リオパラリンピック閉会式での
日本の演出**

“Positive Switch” Rio Paralympic Frag Handover Ceremony.

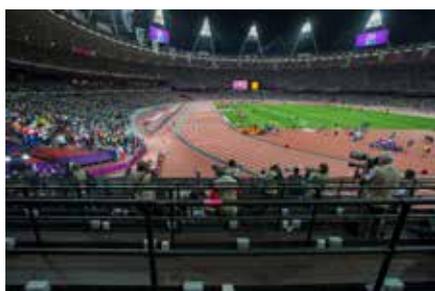
撮影：中村 Manto 真人 (2016 年 9 月)



**ロンドン 2019
パラ水泳世界選手権 日本代表**

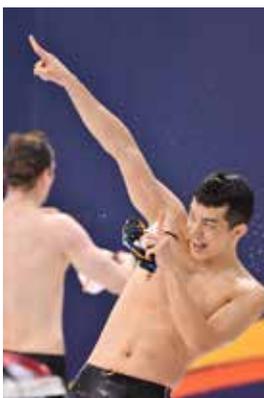
7 日間のすべての競技を終えた選手たち。金メダル 3 個を含む 14 個のメダルを獲得した。

撮影：安藤理智 (2019 年 9 月)



**メインスタジアム
ロンドンパラリンピック**

撮影：安藤理智 (2012 年 8 月)



**東海林大、世界記録樹立、金メダル！
ロンドン2019パラ水泳世界選手権**

撮影：安藤理智 (2019 年 9 月)



**河合純一、世界記録樹立、
金メダル！アテネパラリンピック**

50メートル自由形 S11・26 秒 64

撮影：吉村もと (2004 年 9 月 26 日)



村岡桃佳、大回転で金メダル！

日本最多・出場 5 種目全てでメダル (金 1、銀 2、銅 2)

撮影：山下元気 (2018 年 3 月)

展示 2



ベッティーナ・アイステル&ファブルーフアイブ (ドイツ)

撮影：山口ミカ (2008年9月) 北京パラリンピック・香港馬術会場



**自転車男子タンデム (視覚障害)
ロンドンパラリンピック**

撮影：安藤理智 (2012年8月)



男子 400m 自由形 S11 (全盲)

ブラックゴーグルで泳ぐ全盲クラス お互いは見えていない。隣のレーンとの接触もしばしば。ロンドン 2019 パラ水泳世界選手権

撮影：安藤理智 (2019年9月)



**男子 100m バタフライ
S11 (全盲)**

日本のエース・木村敬一はパワフルな泳ぎで金メダルを獲得した。

撮影：安藤理智 (2019年9月)



**知的障害・男子 200m
個人メドレー**

東海林大と中島啓智。アジア大会での日本 1、2 フィニッシュ。「負けた悔しさと勝者を讃えたい気持ちだった。(中島啓智)」

撮影：山下元気 (2018年10月)



鈴木孝幸とキャメロン・レズリー、表彰式のライバルどうし

ロンドン 2019 パラ水泳世界選手権

撮影：安藤理智 (2019年9月)



ブラインドマラソン

リオパラリンピック金メダル、世界記録保持者・道下美里。サングラスに映し出された長い道。道下の前には誰も走者がなく、開放的な景色を見ているような彼女の笑顔が光っている。彼女の無駄のない褐色の走るフォームの美しさに見とれて・・・

撮影：中村 Manto 真人 (2016年9月18日)



ロングジャンパー、世界記録保持者マルクス・レーム（ドイツ）

2015年8m40を飛んで健常者アスリートの世界記録をうち破った。「オリンピックで闘うことは最大の目標。出場に向けて義足での踏切に優位性がないことを証明する努力をしている」

撮影：吉田直人（2017年・7月） ロンドン2017パラ陸上世界選手権



車いすトラックレース

ロンドン2017パラ陸上世界選手権
撮影：吉田直人（2017年7月）



義足のトラックレース ロンドンパラリンピック

撮影：安藤理智（2012年8月）



コーラーとの二人三脚、走り幅跳びT11（全盲）

インドネシア2018アジアパラ競技大会、走り幅跳び（視覚障害クラス）日本代表の高田千明選手と、声と手拍子で誘導するコーラーの大森さん。助走前の瞬間。助走前は、大森さんが高田選手の手をとって走っていく体の向きを調整する。視覚障害クラスは見え方を統一するためにアイマスクをつけて行うため、高田選手にとっては大森さんのこの作業が生命線ともなる。

撮影：久下真以子（2018年10月12日）



CPサッカー

7人制脳性麻痺者サッカー。東京大会では種目を外されてしまったが、サッカーはJFA（日本サッカー協会）の元に7つの障がい者のサッカーが認知されインクルーシブな活動を目指している。ロンドンパラリンピックでの写真

撮影：安藤理智（2012年9月）



ブラインドサッカー

5人制視覚障害者サッカー。鈴の入ったボールを使って行うサッカー。東京2020ではB1（全盲）クラスが唯一のサッカー種目となっている。写真は東京で開催された2018 IBSA 公認ブラインドサッカーワールドグランプリ

撮影：内田和稔（2018年3月）



アーチェリー

北京パラリンピック

撮影：山口ミカ（2008年9月）



フィニッシュするベロニカ ヨーコ・プレバーニ（イタリア）

横浜パラトライアスロンでPT2のベロニカヨーコ・プレバーニのフィニッシュシーン。一足先にフィニッシュして待っていた友達のラケル・マテオ ウリアルテ（スペイン）とプレバーニの大きな花束を大事にうけとるような優しい抱擁の瞬間。横浜山下公園

撮影：山下元気（2018年5月12日）



スイムアップ

水泳のエース・木村敬一のライバルとして名前をきいていた、世界チャンピオンのブラッド・スナイダー（アメリカ）が新たな挑戦にいどんだ。パラトライアスロンでガイドとともにスイムを終える。横浜山下公園

撮影：水口之孝（2018年5月12日）



タンデム自転車

視覚障害のトライアスロンはすべての競技をガイドとともに行う。中でもバイクは腕のいいガイドが力を発揮しリードできる。スザーナ・ロドリゲスは横浜で毎年チャンピオンに輝いている。横浜山下公園

撮影：秋富哲生（2018年5月12日）



ボッチャ

ボッチャは「ボール」を意味するイタリア語。重度障害の人でも行える競技として有名だが、健常者もふくめ幅広い層が楽しめる。ヨーロッパではレストランの片隅にコートがあるという。日本でもボッチャ・バーがオープンしたよう。ロンドンパラリンピック

撮影：安藤理智（2012年9月）



池崎大輔

10月19日、準決勝。宿敵オーストラリアに日本は1点差で敗れる。最後までトライを続けた池崎大輔は試合終了とともに天をあおぐ。池崎は函館市出身。岩見沢高等養護学校在学中に車いすバスケットボールを始め障害の進行により2008年から車いすラグビーに転向。2016年リオパラリンピック銅メダル。2018年の世界選手権で初優勝。原動力となった功績によりMVPを獲得。



車いすラグビーワールドチャレンジ2019 決勝戦

10月20日、アメリカ VS オーストラリア。リオでは敗れた絶対王者アメリカがリベンジを果たした。チャック・アオキとライリー・バット、エース同士のにらみ合い。

撮影：秋富哲生



東京で再会しよう！

来年の東京パラリンピック本番と同じ5日間の大会が開催された。トータル来場者数3万5700人。本番の会場は国立代々木競技場。

撮影：秋富哲生

展示 3



平昌パラリンピック閉会式当日

撮影：中村 Manto 真人（2018年3月）



氷上の格闘技パラアイスホッケー

カナダ・アメリカ。優勝はアメリカ。3位に開催国・韓国。平昌パラリンピック

撮影：中村 Manto 真人（2018年3月）



バイアスロン

スタートする新田のんの

撮影：中村 Manto 真人 (2018 年 3 月)



観客席で日本からの声援

平昌パラリンピック

撮影：中村 Manto 真人 (2018 年 3 月)



日本銀メダル！

強豪カナダを制し銀メダルを獲得した日本のパラアイスホッケー（アイススレッジホッケー）バンクーバーパラリンピック

撮影：中村 Manto 真人 (2006 年 3 月)

大判写真



ロンドン 2019

パラ水泳世界選手権

男子 50m 自由形 S4 のゴールタッチ直前。

左：LESLIE Cameron (NZL)、右：鈴木孝幸 (GOLDWIN) レズリーは車いすラグビーのニュージーランド代表でもあり、水泳の世界記録を 2 つも破った少し前には韓国のコートでプレーしていた。

撮影・安藤理智



IPC アルペンスキー ワールドカップ白馬大会

撮影・山下元気 (2017 年 3 月)



車いすバスケットボール

名選手パトリック・アンダーソン (カナダ)

三菱電機ワールドチャレンジカップ 2018

WOWOW WHO I AM シーズン 3 で登場。

www.wowow.co.jp/sports/whoiam/lineup/patrick/

撮影・山下元気

写真家プロフィール

中村 Manto 真人

バンクーバー（カナダ）在住。トライアスロン、アイアンマンそして自転車競技ツールドジャパンのステージ優勝などの選手経験を経て1992年カナダに移住。オリンピック、パラリンピック、女子ワールドカップサッカーなどを頂点に幅広いスポーツ分野のアスリートの輝きを取材、応援。バンクーバーでオーガニック納豆の製造販売事業も手がけている。

山口ミカ

写真家。ローマ在住の頃パラスポーツの写真に触れる。選手のスポーツにかける情熱、彼等を支える人々とのコミュニケーション、競技を媒介として生まれる人間のドキュメンタリー。リアルなものを写真で伝えていきたいとパラフォトに連絡。2006年トリノパラリンピックより、2008（北京）、2010（バンクーバー）までカメラマンとして撮影。2010年8月、病床にあったが下松の自宅にて永眠。

秋富哲生

九州出身、東京都在住。友人が撮影したパラリンピックの写真を見てパラスポーツの魅力に引き込まれた。選手たちの輝いている瞬間を切り取り、パラスポーツの魅力を多くの人へ伝え盛り上げていきたい。2018年よりパラフォトの活動に参加。

内田和稔

横浜生まれ。2009年に知的障がい者サッカーに出会い、横浜Fマリノスの知的障がい者サッカーチーム「フトゥーロ」を中心に撮影。横浜ラポールで、Jリーグ初の知的障がい者サッカーチーム「横浜F・マリノスフトゥーロ」写真展を開催。特別支援学校高等部選手権大会、ジャトコ&マリノスフトゥーロカップ、電動車椅子サッカー横浜大会マリノスカップ、電動車椅子サッカー全日本選手権オフィシャルカメラマンを担当。2017年よりパラトライアスロンを撮影。

吉田直人

1989年生。中学～高校まで陸上競技部に所属。大学時代は学内の機関紙記者として活動し、箱根駅伝やインターカレッジを中心に取材。2016年勤務していた広告代理店を退職、フリーランスライターとして活動中。義肢装具士、義足のスプリンターとの出会いをきっかけに、障害者スポーツへの取材にも積極的に取り組んでいる。

安藤理智

横浜国立大学（教育）、カセサート大学大学院（スポーツマネージメント）卒。タイ・バンコクをベースに、カンボジア、日本で4つの会社を経営する傍ら、2008年10月よりタイ・オリンピック委員会のオフィシャルフォトグラファーを務める。フォトグラファーとしてだけでなく、大会役員、選手団役員など、様々な形でスポーツに関わり続けている。2006年アジアパラリンピック、2008年北京パラリンピック、2012年ロンドンパラリンピックほか、直近はロンドンで行われたパラ水泳世界選手権で世界のパラスイマーを撮影。

山下元気

松葉杖と車椅子のカメラマン。交通事故から一生寝たきりを宣言されながらも受け入れず、自分の希望を信じ長年の努力の末医学的な診断を覆す。以降、松葉杖でカメラを手に取り、以前から音楽関係の場面を中心に撮影を続けてきた経験を生かしカメラマンとして復活。音楽関係以外にも雑誌、新聞、広告、アイドルやタレントの撮影など様々なジャンルを撮影。自身の経験を写真を通して伝えていこうと活動している。リオパラリンピックの準備からパラスポーツの写真の撮り始める。平昌、アジアパラ（ジャカルタ）ほか、冬季競技の撮影にも車椅子で取り組む。

吉村もと

2004年アテネパラリンピックより、パラスポーツを撮影。2006年トリノパラリンピック以降、アイススレッジホッケーなど冬季パラスポーツの撮影にも精力的に携わる。夏冬、国内外のパラスポーツを撮影し、現地から伝えている。

久下真以子

大阪府出身。フリーアナウンサー、フォトジャーナリスト、スポーツライター。四国放送アナウンサー、NHK高知・札幌キャスターを経てフリーアナウンサーへ。2011年に番組でパラスポーツを取材したことがきっかけで、パラ取材を志すように。目標は「日本一パラを語れるアナウンサーになること」。現在はパラスポーツのほか、野球やサッカーのリポートなどスポーツを中心に活動中。現在、東京で猫と2人暮らし。